

論文内容の要旨

氏名	西村 優輝
Risk factors for mortality after hip fracture surgery in Japan using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (和訳) 日本人の大腿骨近位部骨折手術後の死亡率の危険因子について、全国健康保険請求・特定健康診査データベースを用いた検討	

論文内容の要旨

【背景】

大腿骨近位部骨折は高齢者の骨折の中で最も一般的でかつ高い死亡率であることが知られている。私たちの目的は日本全国の健康保険請求データベースを用いて大腿骨近位部骨折の性状および1年死亡率を上げる因子を判明させることである。

【方法】

2013年から2021年間に全国規模の健康保険請求データベースに登録された大腿骨近位部骨折で入院して手術加療を受けた患者を対象とした。患者の特徴として性別、年齢、骨折のタイプ、術式、手術日の遅れ、併存疾患、輸血、肺塞栓の患者の数を集計し1年死亡率と入院中の死亡率を求めた。

【結果】

生存率は男性、高齢、大腿骨転子部骨折と大腿骨転子下骨折、骨折観血的手術の術式、入院から3日以降の手術、多い併存疾患、輸血、肺塞栓の患者で有意に低くなった。反対に女性、大腿骨頸部骨折、人工股関節全置換術、入院から2日以内の手術、少ない併存疾患、輸血なし、肺塞栓なしの患者は死亡率の低下を認めた。

【結論】

日本における大腿骨近位部骨折の発生数および1年死亡率を解析し死亡率をあげるrisk factorとして性別、年齢、骨折のタイプ、術式、手術日の遅れ、併存疾患、輸血、肺塞栓が有意に関係していた。